

すくすくと 一流れのほとりに植えられた木のように

いかに幸いなことか 神に逆らう者の計らいに従って歩まず 罪ある者の道にとどまらず
傲慢な者と共に座らず 主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。

その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることが
ない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。
—詩篇1編1～3—

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会

2007年8月28日
第111号



『良き伝統を継承するために』

横浜愛隣幼稚園

園長 古旗 誠

神奈川部会は四十年を迎えましたが、「四十」は大切な節目の意味をもつ数です。モーセがイスラエルの民を荒野で四十年間指導した年数です。そして、後継者であるヨシユア他の若者たちにモーセからバトンタッチされ、約束の地を目指していくのでした。

聖句

最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。

コリントの信徒への手紙Ⅰ

15章3節

キリスト教教育において大事な姿勢として教えられていることですが、ウエスターホフ著『子どもの信仰と教会』で述べているように、良い伝統が継承されるためには、三つの要素が大事であります。第一は「共同体の儀式」であります。キリスト教保育における礼拝の生活であります。神を畏れ敬う礼拝であります。礼拝抜きにキリスト教保育は成り立ちません。観念化された「キリスト教的」な保育が成されるだけになってしまいます。保育者に求められることは、自分が保育者だから礼拝するのではなく、礼拝者として保育において礼拝をしているという意識であります。そうでないと神への礼拝でなく、子どものための儀式になってしまいうでしょう。それは子どもを礼拝から引き離すことになってしまいます。

第二は「共通の物語」であります。それは聖書であり、イエス様の生涯と教えであります。それと私たちの信仰の物語としていくことであります。子どもの道徳物語ではなく、福音として伝えることであります。ここでは保育者自身の聖書の取り組みが求められることです。

第三は「重層世代の交わり」であります。現代の家庭環境は、親子二世代が多いのですが、伝統が継承されていくためには三世代の関わりが必要です。様々な年代の者が関わる中で継承されて行くのです。キリスト教保育は、信仰をもって子どもに関わってきた先輩たちの姿勢から学び、受け継いでいくことが大切ではないでしょうか。

今年は、メソジスト教会にとって大切な人物であるチャールズ・ウエスレーの生誕三百年です。讃美歌作者として有名ですが、讃美歌21には十五曲納められています。兄のジョン・ウエスレーと共にメソジスト信仰復興運動を展開した人です。彼等の母（スザンナ）の家庭教育は徹底したところがあり、十八人の子どもたちを一人で育てたのです。彼女の教育方針は三本柱からなり、第一は神を愛する教育（宗教教育）、第二は隣人を愛する教育（奉仕と献身、友のため世界のために祈る）、第三は自分を愛する教育（自己修練、良い生活習慣、賜物を伸ばす）でした。そして、神の御心に適う子どもを育てるために祈り、神を愛して生きる人生の尊さを教えたのです。キリスト教保育にとって大切な視点ではないでしょうか。

神奈川部会は、次の四十年に向かって良き伝統が継承されていくように、皆で祈りを合わせ助け合っ

新任の先生に ききました

新入園児と同様、新任の先生方も、園生活にすっかり慣れたころでしょうか。十六名の方々がアンケートにご協力くださいました。

Q1. 担当しているクラスと役割は何ですか？

A. 年長担任 四名
 年中担任 六名
 年少担任 五名
 全体フリー 一名

Q2. 子どもと読みたい本、読んであげたい本は何ですか？

A. 最多票「ぐりとぐら」中川李枝子 山脇百合子 (福音館書店)
 二位「ありがとう どういたしまして」
 ルイス・スロボトキン (偕成社)

「くれよんのくろくん」
 なかやみわ (童心社)

「14ひきのねずみシリーズ」
 いわむらかずお (童心社)

「はじめてのおつかい」
 筒井頼子・林明子 (福音館書店)

「はらぺこあおむし」
 エリック・カール (偕成社)

トップはシリーズものを含めると、多数の方があげていました。子どもたちのために心が豊かになるような良い本を選び、子どもたちに出会わせてあげたいものです。

Q3. 子どもと歌いたい歌は何ですか？

A. 「さんぽ」

詩・中川李枝子 / 曲・久石讓

「アイスクリームのうた」

詩・さとうよしみ / 曲・服部公一

「あめふりくまのこ」

詩・鶴見正夫 / 曲・湯山昭

「そうだったらいいのにな」

詩・井出隆夫 / 曲・福田和禾子

「パレード」 詩・新沢としひこ / 曲・中川ひろたか

紙面の都合上、上位5曲をあげてみました。

Q4. 自分の園の自慢を一つあげてみてください。

この質問への回答を三種類に分けてみました。「環境」「保育」「職員」です。

A. 「環境」

・園庭が広いこと。

・豊富な種類と数の絵本を揃えた文庫があること。

・自然環境に恵まれていること。

・教会が隣にあること。

・海が近いこと。

・近くに動物園があること。

「保育」

・小規模でアットホームな保育。

・チーム保育。

・保育の中に、園独自の学びの時間があること。

・バス登園がないため、保育者

と保護者とのコミュニケーションが図れること。

・子どもたちから出た遊びを大切に、子どもたちにとって良いものを考え、実行していること。

「職員」

・保育者同士の意見交換があること。

・保育者一人ひとりの思いを尊重してくれること。

・先生同士の仲が良く、不安なこと、子どものことを相談しやすいこと。

Q5. 保育者になつての抱負や心境を一言お願いします。

A. 子ども一人ひとりの気持ちを理解できる保育者になりたい。

・子どもと向き合って、少しでも子どもたちを理解できるようにしたい。

・日々勉強の毎日ですが子どもたちと共に成長していきたい。

・いつも心に余裕を持っていたい。

・勉強してきたことが、そのまま……という感じではなく、難しい部分もたくさんですが、子どもたちと毎日楽しく過ごしていきたいです。子どもたちはとつてもかわいいし、おもしろいです。

・子どもと共に楽しみながら、共に成長していくことができたらいいなと思っています。

・保育者になつて「責任をもつ」ということの重大さが分かり、気を配っていかねばならないと思いました。

・保育を楽しみたい。喜びをもつて感謝して保育する。

・子どもたちへの対応、保護者の方との関係、もちろん園生活でもまだまだこれからですが、幼稚園という場で、神様や保育者に守られていることを実感しながら、のびのびと遊び、遊びの中で様々なことを体験して欲しいです。そのサポートができればと思っています。

・子どもの日々成長する姿、豊かな感性に驚かされます。子どもたちと共に一瞬一瞬を大切に、様々な事柄に感謝をしていきたいと思っています。

……

……

……

……

……

……

……

……

日々の働きのただ中に神様がいてくださいます。子どもたちも私たちも、神様が成長させてくださることを信じて、それぞれの場で励んでまいりましょう。新任の先生方の上に、神様の力強い支えがありますようお祈りいたします。



神奈川部会 創立40年によせて 西田直樹

キリスト教保育連盟神奈川部会が関東部会より分離・独立して四十年を迎えることができました。

金児和子先生もお書きくださっており、この四十年の間、歴代の部会長・副部会長として委員や主任会の先生方によって神奈川部会は担われてきました。神奈川部会の精神はキリスト教信仰を中心に自主独立を貫き通すこととあります。連盟本部につきはず離れず、一定の距離を保ちつつ、連盟にも協力して参りました。

私は神奈川幼稚園の園長時代からずっと神奈川部会の役員として奉仕させていただきました。諸先輩の先生方からお教えいただきました。特に日本基督教団以外の先生方との交わりは貴重であり、また様々な幼稚園・保育園・幼児施設・養成校から得られた知恵は、今日も生かされております。神奈川部会がなければ出会うことがなかったであろう先生方と出会い、交わってくださいました。また、直面する幼稚園の諸問題を相談させていただき、適切なアドバイスをいただくことができました。

さらには日本基督教団神奈川教区の先生とも、教区や教会を離れてお付き合いさせていただきました。亡き早川規先生とは、腹の底から付き合っていたいただきました。神奈川部会があったからこそ、親しみは倍加したのでしょうか。

わたしはある時、委員の一人として、「神奈川部会史」を纏（まと）めておくべきだと提案しましたが、その頃、主任会をリードしてくださっていた先生から反対をされて消えてしまいました。その代わりとでも言いましょうか、浜松の「エデンの園」に倉田俊丸先生を訪問して、神奈川部会の始まりの頃の話聞かせていただき、それを録音して、「部会だより」の原稿と致しました。現在も野毛山幼稚園に保管されている膨大な資料をいくつか整理して、「神奈川部会史」にまで纏めてくださるのは、創立五十年の時でしょうか。だんだん生き証人がいなくなってしまうですね。

創立四十年を記念して、部会長

として聖句とメッセージを書くようにとのご要望でした。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」（ローマの信徒への手紙十二章十五節）これは使徒パウロが未だ訪れたことのないローマの教会の信徒たちに、パウロ自身の自己紹介並びに福音理解を紹介し、また願いを書いております。その願いの一つに、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」があるのです。

保育者にとって必要なことは共感シンパシーです。同情ではなく共感・共鳴です。主イエス御自身も死んだラザロとその姉妹マルタ・マリアに対して、「イエスは涙を流された」（ヨハネ十一章三五節）。また、幼子を迎え入れた主イエスは幼子と共に笑い、喜んだ聖画があります。主イエスこそ共感・共鳴をされました。

私どもはもつと感情豊かに喜びや悲しみの感情表現を表に現して良いのではないのでしょうか。子どもと共に喜びも悲しみも分かち合い生活をされておられるでしょう。

しかし教師や職員や教会員とはどうでしょうか。ある人がこんなことを言っています。「私たちは泣く人と共に泣くのは可能だが、喜ぶ人と共に喜ぶのは難しい。」と。なぜなら泣く人と共に（表面的に）泣く。それは自分が一段高い

所に立つて謂わば同情して泣いているのに過ぎない。他方、喜ぶ者と共に喜べない自分がおります。その喜びに対して嫉妬心を抱き、弱点を探し当て、何とかその喜びからひきずり下ろそうとします。何と心の狭い者でしょうか。

「福音」とは喜びのおとずれであります。主イエス・キリストの十字架と復活こそ喜びの源泉であり、福音そのものであります。その福音に生き、生かされるとき初めて正しく「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」という使徒パウロの願いを満たすことができるのです。保育・教育を巡る環境は厳しさを増し続けています。その中で、それらの流れに抗して福音に生き、生かされるキリスト者・保育者によってキリスト教保育が実現すると信じて止みません。



部会創立

四十周年を迎えて

野毛山幼稚園

副園長 金児 和子

神奈川部会は、一九六七年（昭和四二年）にキリスト教保育連盟関東部会から独立し、一県一部会としての歩みを発足しました。創立に際しましては、当時の役員の方の先生方のご苦勞があつたことと感謝いたしております。

当時は加盟園が四十二園と聞いておりますが、現在では五十一園、養成校二校、会友十名余となりました。

四十周年に至るまでの部会長、副部会長の歴代の先生方をご紹介したいと思います。

- 部会長 高田彰先生 五期
- 副部会長 故広井修先生 五期
- 部会長 故広井修先生 二期
- 副部会長 新美昭子先生 二期
- 部会長 新美昭子先生 二期
- 副部会長 金児栄治先生 二期
- 部会長 金児栄治先生 九期
- 副部会長 故依田駿作先生 一期
- 部会長 故早川規先生 三期
- 副部会長 山鹿昭明先生 五期
- 部会長 川又志朗先生 一期
- 副部会長 青木勝次先生 一期
- 小林誠治先生 一期

部会長 西田直樹先生 一期
副部会長 青木勝次先生 一期
川又志朗先生 一期

そして二〇〇七年度の役員改選に於いて

部会長 西田直樹先生
副部会長 古旗 誠先生
森田裕明先生

が選出されました。紙面の都合上、その時代時代の役員の方の先生方を記載出来ない失礼をお許しください。また、部会の活動に忘れてはならないことは、主任の先生方のプロジェクトチームによる支えがあり、過去三十九年間いろいろの研修会が続けられたことは素晴らしいことと、陰でご尽力くださった先生方に心からお礼申し上げます。

部会の特色の一つに夏期講習会があります。八月末、二学期を迎えるに当たって、同僚の先生方と共に交わり学び合い、愛する子どもたちとの再会を楽しみに、二期への希望と抱負を与えられる欠かせない研修会となっております。連盟の全国夏期講習会が神奈川部会の当番に当たった一九八二年のホリデーインの時と、一九九九年の横浜プリンスホテルで行われた二回は、連盟の方に参加し、それ以外はずっと神奈川部会独自の夏期講習会を続けて参りました。今思い出しただけでも、泊りがけで

箱根の強羅ホテル、群馬の水上館、嵐山の国立女性教育会館、熱海の池田屋、大野屋、創立三十周年の時は貸切バスを連ねて白樺観光ホテルへ、研修会の合間のそば打ち体験、霧ヶ峰の車山高原への散策、チャップレンには、今は亡き早川規先生がご奉仕くださったこと、あんな事もこんな事もあつたと懐かしく思い出されます。

次第に一日の講習会になりましたが、多くの講師の先生方との出会いがあり、たくさんのお話を学ばせていただきました。その中のコンサートは、間近に美しい音楽

を聴き、心のゆとりと豊かさの時間が与えられました。

部会だよりも、広報委員のお働きにより、二〇〇七年二月には発足以来一〇〇号を発行することが出来、本当に感謝です。

部会だより一〇〇号に座談会として、「受けつぎ育てようわたしたちの神奈川部会」と題した記事が載っております。座談会に出席された先生方の方、キリスト教保育に対する熱い思い、園児（幼な児）に接する保育者の態度を深く示されました。

部会四十周年を迎えるに当たり、私たちは何を受けつぎ育てているであろうか、深く考える機会にしたいと思っております。それぞれが与えられた責任を十分に果たし、魅力ある神奈川部会に発展することを祈ります。



1996年11月18日

部会創立30周年に当り、マンガリンホテルで記念感謝の会を行いました。この中には先生方のおられますが、たくさん懐かしいお顔の先生方がおられますので、この写真をご載せさせていただきます。

新任教師研修会の報告

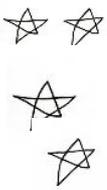
「子どもの心を見る保育」

日時 二〇〇七年五月十六日
会場 横浜英和幼稚園
参加人数 二十五名
新任教師研修会担当 寺田千栄

短い礼拝をもって、会を始めました。講師の後藤富子先生は望記念幼稚園前園長で、長い間の保育者としてのご経験から、具体的に子どもの心を育てる保育についてお話してくださいました。「保育を樂しむのも、つまらないものにするのも、保育者次第である」「保育の仕事は怠けようと思えばいくらでも怠けられるし、追求しようと思えばいくらでも出来る」という言葉を園の合言葉として、時折心に留めていたとお話されていました。幼児期は子どもの心が育つ時だから、自由に自己表現できる自発活動の中で、近寄ってよく観察している、子どもの心の動きに気づけるようになり、言動だけではなくその裏にある心の動き（内的活動）が見えてくるようになる。それを受け止め、理解していくこととの大切さや、見えてくることよって、子どもの次の動きや要求に気づけるようになる。そして、子どもたちはその活動の中で自主

的に発動することと、静止する能力を身につけていき、自分の集団の中での位置づけができる。つまり、自分を自由に表現しつつ社会の要請に応えることのできる人になっていくことが、大切な精神面の成長であることを教えてくださいました。具体例をあげて、子どもの心が動いている（内語を使っている）時はじっと見守ったお話しとか、子どもに今持っている能力のほんの少し上を刺激として与えていった言葉がけのお話等でした。また、先生の所では「くクラス」「く歳児」の保育計画ではなく、一人ひとりがみんな違うから、「この子の保育」という視点で、全員の教師で、全員の子どもたち一人ひとりについて話し合い、共通理解をもつようにされていたとお話でした。参加者それぞれが深い観察をするにはどうしたらいいか課題を頂きました。その後、グループに分かれて懇談の時を持ちました。それぞれに、先生のお話から課題を頂いて、目標をもったようでした。

新任研修会の回を追う度に、互いに課題について報告し合い、深められればと思います。



社会力を育てることの大切

講演会担当 河窪悦子

六月二十日(水)、今年度第一回目の講演会が野毛山幼稚園で行われました。講師は、筑波学院大学学長 門脇厚司先生です。以下、ご講演内容を報告いたします。

「社会力」とは、人が人とながつて社会をつくる力であり、この社会力をつくるのが今こそ重要な時である。それは、若い親たちも含め、子どもたちが社会力をなくしている。他者を喪失している現実があるからである。他者をなくすということは、他の人のことを自分のことのように理解することができないということであり、それは結果として自分の立場や利益しか選びようがないということになる。しかし、「ヒトの子」は放っておいても他人（ひと）のことがわが事のように分かるような能力を先天的に備えている。それは、ヒトと関わりをもつ、特に大人と相互交流するために産み落とされたと断言する他ない。また、人間は大きな脳を持っている。これは、人間は社会を作ってしか生きられない動物であり、様々な人たちと良い関係を作って生きるため、大

きく、性能の良い脳が必要だったと考えられる。なぜ今、社会力が低下しているのだろうか。それは、人との関係を作るために必要な環境がどんどんなくなっているからである。「向こう三軒両隣」の時代には、何百種類の間関係の中で子どもは人間形成され、成長していった。しかし、現代は限られた人間関係の中でしか生きられない。ヒトの子は、どの子どもも大人と関わりをもち、応答し続ける能力をもっており、生まれた直後からその能力をフルに発揮させることができたなら、今の時代のへんなことは起こり得ない。それでは社会力はどの様に培われ、育まれ、強化されていくのだろうか。それは、子どもが大人と関わり続けることである。他人との関わりが人間をつくり、その中で最も重要なのが大人との関わりである。そのため、子どもの周りにいる大人が、“かわいい”という感情をもち続けて、子どもとの応答の身を豊かにしていくことが大切である。私たちは幼稚園の先生である前に、子どもの前では大人なのだといふきちんとした自覚をもっている必要がある。

以上、貴重な学びのひとつでしたが、可能であれば考え合う時が持てればと思いました。

《役員会報告》

書記 田名網 仁

皆様元気にお過ごしのことと思います。六月七日(木)に平塚二葉幼稚園にて、二〇〇七年度最初の役員会が行われましたので報告いたします。

◆今年度役員は**部会長**・西田直樹

副部会長・古旗誠、森田裕明、

書記・鈴木裕美、田名網仁、

会計・島田美緒、豊嶋ときわ、

監事・島田勝彦、坪内克浩、

園長会・青木勝次、川又志朗、

主任会・國尾雪、堀口由利子です。

◆四〇周年記念夏期講習会

八月二十八日(火)セントジョー

ムスクラブ迎賓館で行います。

主題は「いのち」。講師は阿部志

郎先生(元横須賀基督教社会館

館長・神奈川県立保健福祉大学

学長)です。また、四十周年記

念式典も行われる予定です。

◆主任研修会

七月六日(金)、みくに幼稚園に

て行われました。講師は船本弘

毅先生です。

◆四月十七日(火)野毛山幼稚園で

行われたキ保連神奈川部会総会

議事録が承認されました。

◆二〇〇七年度キリスト教保育連

盟総会(五月二十八日)報告が

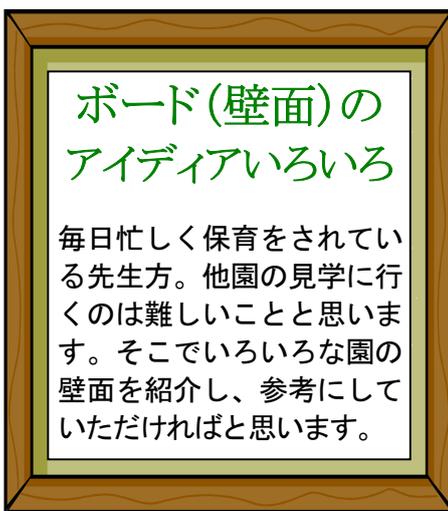
されました。

◆辻堂教会の押川幸男先生が会友

になることが承認されました。



年少組、初めての“のり”の活動で画用紙の汽車に好きな色の紙を貼って遊びました。(めぐみの子幼稚園)



お花に布を使って、素材の工夫が活きています。(横浜英和幼稚園)



(ひかりの子幼稚園)

毎日忙しく保育をされている先生方。他園の見学に行くのは難しいことと思います。そこでいろいろな園の壁面を紹介し、参考にしていただければと思います。



かわい動物が手に持っているのは、子どもたちが色を付けたカラフルな風船。草の部分にはやわらかな素材を利用して工夫しています。(横浜英和幼稚園)

編集後記

今回も原稿依頼を快くお引き受けくださった先生方、ありがとうございます。今年度から広報担当が替わり、不慣れではございますが、今後も皆様にご協力をいただきまして、保育に活かせる部会だよりがお届けできればと考えております。ご意見、ご感想等ありましたらお寄せください。



小枝やドールハウスの人形を使って立体的に。(ひかりの子幼稚園)

発行日

二〇〇七年八月二十八日

発行所

平塚市見附町六一十八

平塚二葉幼稚園 内

キリスト教保育連盟 神奈川部会

編集者

神奈川部会 広報担当